

不登校児童生徒への支援



課題解決に向けた具体的な方策

全ての児童生徒の学びの保障に向けた あおもりし COCOCOLO プラン

- 1 青森市における不登校の対策
- 2 個別プログラムを活用した支援
- 3 不登校等特認校における取組

(参考資料)
校内教育支援センター
設置マニュアル

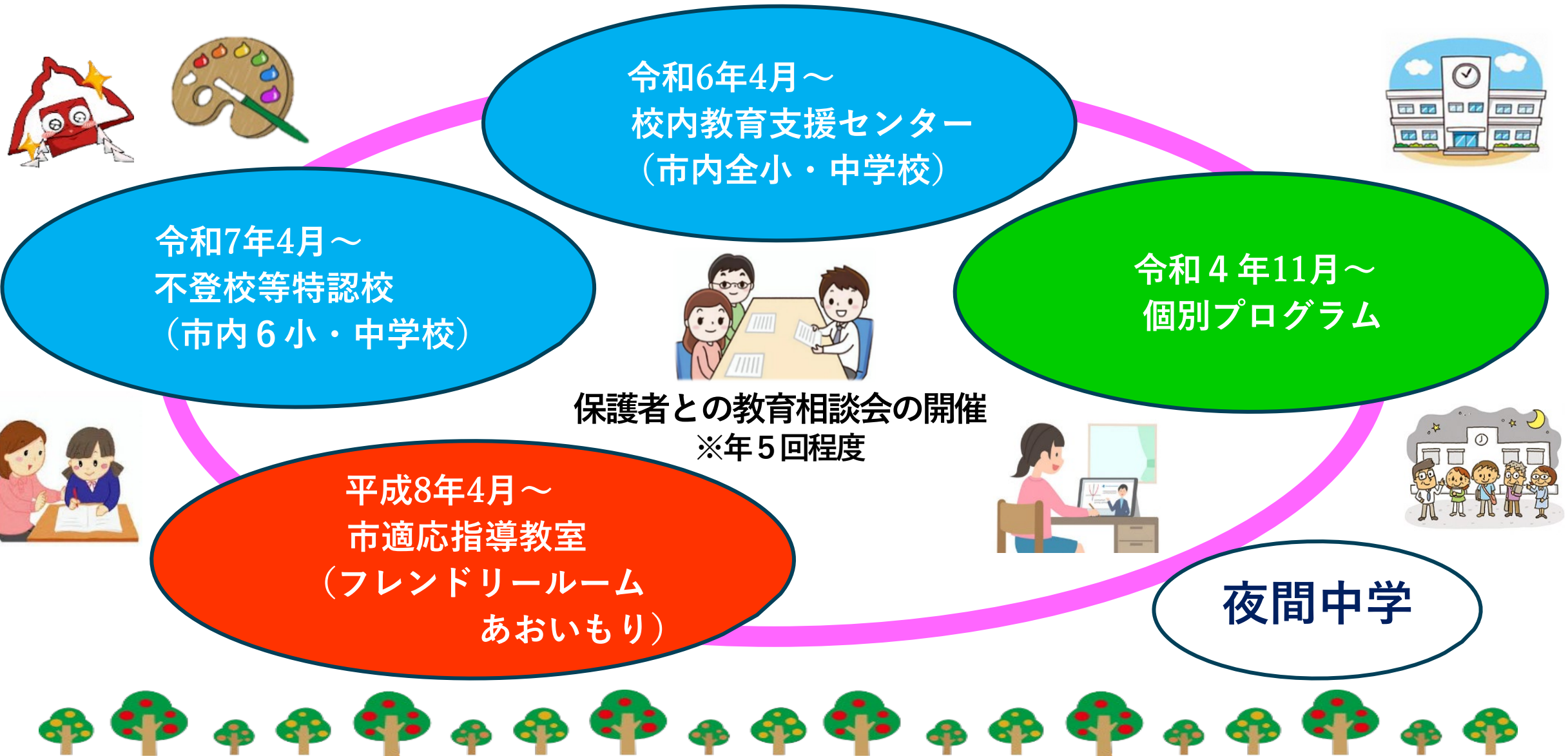
自己実現

自己決定



1 青森市における不登校の現状

たくさんの人のつながりの中で居場所づくり・絆づくりを支援する あおもりし COCOCO プラン 策定



児童生徒一人一人の夢・志を支援する「子どもの居場所マップ」

保護者の皆様へ

本市では、児童生徒一人一人の夢・志を支援するため、全小・中学校に校内教育支援センターを設置しています。令和7年度4月からは、油川小学校・油川中学校、新城中央小学校・新城中学校、堤小学校・浦町中学校の6校を不登校等特認校とし、不登校児童生徒の学びの保障に向けた支援に努めていきます。校内教育支援センターや不登校等特認校、青森市適応指導教室についてのご質問は、各学校及び教育委員会事務局指導課で対応しますので、右下の問い合わせ先にご連絡くださるようお願いいたします。

()は、令和6年度利用実績



北中校区
○北中 (6人)
ヒパルーム
○北小 (4人)
校内教育支援センター

油川中校区
○油川中 (10人) ※特認校
Sole
○油川小 (9人) ※特認校
おてさまルーム

東中校区
○東中 (12人)
なないろ
○東陽小 (0人)
ステップ
○原別小 (14人)
さくらルーム
○野内小 (1人)
ハートフルルーム

浪打中校区
○浪打中 (35人)
青浪ルーム
○浪打小 (3人)
COOLOO ルーム
○合浦小 (7人)
元気ルーム

造道中校区
○造道中 (15人)
メタセコイア
○造道小 (8人)
スマイルルーム
○小柳小 (10人)
ステップルーム

佃中校区
○佃中 (13人)
トレジャールーム
○佃小 (13人)
ふれあい教室
○浜館小 (8人)
青空ルーム

筒井中校区
○筒井中 (14人)
ステップアップルーム
○筒井小 (14人)
ステップルーム
○筒井南小 (5人)
校内教育支援センター

戸山中校区
○戸山中 (4人)
T-room
○戸山西小 (2人)
校内教育支援センター

横内中校区
○横内中 (7人)
校内教育支援センター
○横内小 (3人)
校内支援室
○幸畑小 (2人)
あったかルーム

荒川中校区
○荒川中 (8人)
颯爽ルーム
○荒川小 (2人)
教育支援ルーム
○高田小 (3人)
校内教育支援センター

甲田中校区
○甲田中 (42人)
らしっく
○甲田小 (0人)
甲田っ子ルーム
○金沢小 (5人)
みんなの会議室

西中校区
○西中 (9人)
ホタルルーム
○泉川小 (3人)
COOLOO ルーム
○浪館小 (3人)
校内教育支援ルーム

沖館中校区
○沖館中 (19人)
ヒパルーム
○篠田小 (12人)
篠田ルーム
○沖館小 (9人)
学びルーム

古川中校区
○古川中 (11人)
チャレンジルーム
○古川小 (0人)
陽だまりルーム
○千刈小 (4人)
教育支援センター

浦町中校区
○浦町中 (26人) ※特認校
ニケルーム
○堤小 (2人) ※特認校
サポートルーム
○後町小 (0人)
校内教育支援センター
○橋本小 (1人)
校内教育支援センター
○浦町小 (4人)
ひだまり

三内中校区
○三内中 (18人)
さんまろーむ
○三内小 (2人)
おひさまルーム
○三内西小 (12人)
校内教育支援センター

新城中校区
○新城 (23人) ※特認校
T-roomしらかば
○新城小 (6人)
校内教育支援センター
○新城中央小 (23人)
You&ゆうルーム

浪岡中校区
○浪岡中 (17人)
学びの橋ルーム
○浪岡南小 (6人)
みなみっこルーム
○女鹿沢小 (4人)
MAGA ルーム
○本郷小 (0人)
すずらん
○浪岡北小 (6人)
北の子ルーム
○浪岡野小 (0人)
ひだまり

令和6年度
校内教育支援センター利用状況

		小	中	小・中
7月	利用者 (人)	109	195	304
	教室復帰 (人)	68	92	160
12月	利用者 (人)	202	292	494
	教室復帰 (人)	140	140	280
3月	利用者 (人)	227	334	561
	教室復帰 (人)	159	178	337

青森市役所駅前庁舎
教育委員会事務局
指導課

市適応指導教室
フレンドリールーム
あおいもり

県適応指導教室
こころの教育
相談センター

問い合わせ先
青森市教育委員会事務局指導課
TEL 017-718-1869



【小学生の事例】

自分の教室に入ることに対して不安を抱える児童への組織的な支援

① 校内教育支援センター利用のきっかけ

友達との関わりについて不安になり、自分の教室に入ることが怖くなった。

② 学校の対応

本人、両親、学級担任、校内教育支援センター担当の5人で教育相談を実施し、校内教育支援センターを紹介したところ、翌日からセンターを利用することとなった。センターでは、その日のプログラムをセンター担当と相談しながら本人が書き、プログラムに基いた支援を受けている。授業にはリモートでの参加し、朝自習や給食、清掃、帰りの会の時間は自分の教室に戻ることにした。

③ 児童の変容

自分の教室で過ごす時間、校内教育支援センターで過ごす時間を区別し、基本的には、自分の教室で過ごすということを意識させた結果、学級に復帰することができた。学級復帰にあたっては、学級担任と校内教育支援センター担当がこまめに連絡を取りながら、本人の気持ちに寄り添い、無理のない授業参加を促したことにより、日々、エネルギーを蓄えることができたと感じている。

◇ 令和7年 8月28日時点、校内教育支援センターで支援した教科3教科。

◇ 令和7年10月20日時点、学級復帰。

【中学生の事例】

学習面に不安を抱える生徒への実態を踏まえた支援

① 校内教育支援センター利用のきっかけ

中1の5月頃から欠席が増え始め、中2の5月まで続いた。欠席理由は、授業中に指名されるのが苦手で、周囲の目が気になる。

② 学校の対応

学校では、本人及び保護者との教育相談を実施し、自分の教室ではなく、校内教育支援センターで、わからないところの補充学習から始めることとした。また、校内教育支援センターでの様子は保護者に電話で継続的に伝え、情報を共有しながら支援を進めている。さらに、母親の不安を軽減できるよう、スクールカウンセラーとも連携し、カウンセリングも実施した。

国語、社会、数学、理科、英語については、教科担任との信頼関係構築を図るため、個別指導を実施し、学習内容の定着に努めている。一方、美術や技術・家庭科については、文化祭に向けて作品づくりに取り組むこととした。

③ 生徒の変容

中2の4月時点では、登校できなかったが、本人の困り感を解消できるよう、安心できる居場所として校内教育支援センターを提案し、実態を踏まえた支援を継続した結果、登校が続いている状況である。学級担任だけではなく、校内教育支援センター担当教諭とも一日の流れを確認することで、見通しをもって学校生活を送れるようになってきている。

◇ 令和7年 4月 7日時点、校内教育支援センターで支援した教科はなし。

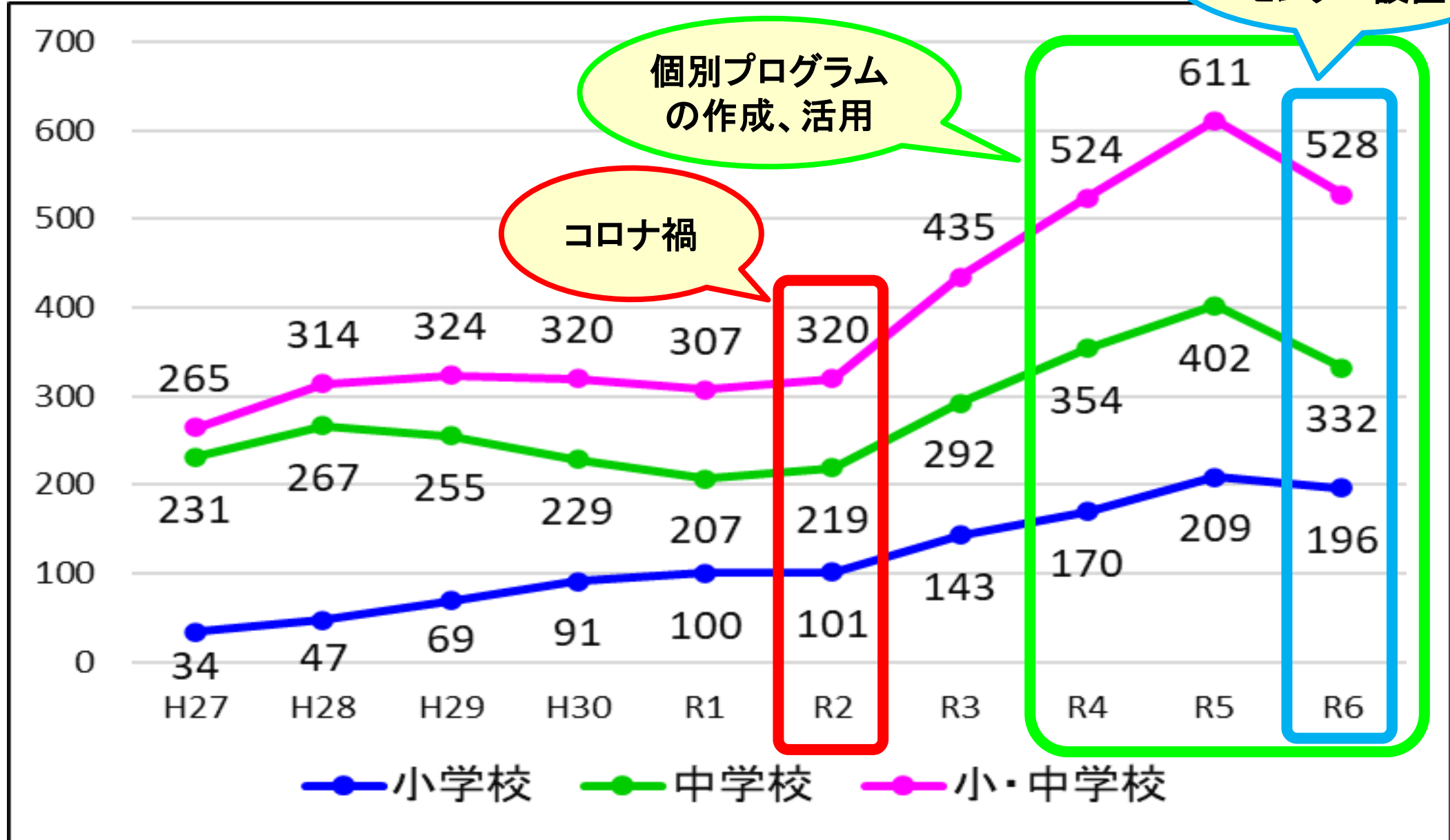
◇ 令和7年10月10日時点、校内教育支援センターで支援した教科は7教科。

過去10年間の不登校児童生徒数の推移

校内教育支援
センター設置

個別プログラムの
作成、活用

コロナ禍



2 個別プログラムを活用した支援

令和4年11月～ 個別プログラムを活用した支援

児童生徒の実態に応じた組織的な支援（各種シートの活用）

① 保護者面談

○保護者面談シート活用

② ケース会議

○ケース会議活用シート活用
○個別のプログラム作成

③ 居場所づくり

○個別のプログラム活用

※保護者面談を通して**保護者、子どもと十分な話し合い**をもって形にする。

※学習内容や学習活動は、**子どもに選択**させ、ケース会議を通して「**だれが、いつ、どのような支援をするのか**」を明確にし、組織的に支援していく。

<個別プログラムの作成状況>

	令和5年度3月末(%)	令和6年度3月末(%)
小学校	53.5	↗ 62.2
中学校	63.1	↗ 85.2
小・中学校	59.8	↗ 76.7



「保護者面談シート（不登校支援）」

保護者面談シート（不登校支援）

～「今、何に困っているか」、「今、何だったら取り組みそうか」、「今、何をやりたいと思っているか」～

対応日 月 日（ ） 年 組 名前

1 お子さんが自分から話をする相手は誰ですか？ ※最も話すことが多い順に

① _____ ② _____ ③ _____

2 お子さんの起床時刻は何時ですか？

3 お子さんの就寝時刻は何時ですか？

4 お子さんは食事をとっていますか？

朝食 ・ 昼食 ・ 夕食

5 お子さんは、自宅のどこで過ごしていますか。

自分の部屋 ・ 居間 ・ その他

6 お子さんは、家ではどんなことをして過ごしていますか。

日中： _____

夜： _____

7 お子さんの調子がよくないのは、どんなときですか？

8 お子さんの調子がよくないとき、どのように対応していると回復しますか？

9 お子さんは、外出していますか？

10 お子さんが、好きなこと、関心があること、得意なことは何ですか？

11 どのような支援を望みますか？

支援方法（居場所）	支援内容
A 別室登校	通路授業、A I 型ドリル等 ※個別のプログラムによる支援
B 市適応指導教室	学習支援、体験活動（表現・製作、調理、栽培等） ※社会性の育成
C 県適応指導教室	学習支援、体験活動（スポーツ、調理、宿泊体験等） ※社会性の育成
D 在宅学習	通路授業、A I 型ドリル、ワーク、通路面談等 ※学習・相談支援
E フリースクール	学習支援、体験活動（調理、栽培等） ※社会性の育成
◇ その他の支援	電話訪問、家庭訪問、保護者面談、SC との面談、放課後登校時の個別指導等

< 目的 >

- ① 支援できる人を把握するため
- ② 生活リズムを把握するため
- ③ 家庭での様子を把握するため
- ④ 学習・生活に係る支援をするため

< 面談体制 >

本人及び保護者と学級担任等による面談を継続的に実施している。

※不登校等特認校については、センター長も対応しており、必要に応じてスクールカウンセラーとのカウンセリングにつなげている。

「ケース会議活用シート」

ケース会議活用シート（見守りが必要な児童生徒・不登校児童生徒）

学校名	新町中	学校	年 組	3年 2組
ふりがな 氏名	しんまち 新町	いちろう 一郎	男	生年月日 平成20年10月10日生
令和4年度 出欠の記録	授業日数	202 日	登校していない日数	50 日
	遠隔授業	10 日	適応指導教室等	20 日
概要	<本人に関わる情報> ・学習に対する不安からテスト前に涙が出て見られ、テスト当日欠席したりすることもあった。 ・数学の宿題は、提出期日を守って提出することは、ほとんどない。 <これまでの指導経過> ・学習面への不安を少しでも解消できるよう、声をかけてきた。 ・3学年に転校後は、落ちついて学習に取り組み、部活動も欠席することなく参加していた。			
生 育 歴 既往歴	<発達上特筆すべきことや本人の行動特徴など> ・コミュニケーションをとることが苦手である。 <受診医療機関名・診断名・経過・診断を受けた時期、転学検査の結果等> ・特に通院している病院はない。			
家庭環境	<家族構成> 父：新町 太郎（公務員） 母：新町 花（公務員） 弟：新町 次郎（新町小学校5年）		<その他特筆すべきこと> ・小学校からの情報によると弟も不登校である。	
学 習	<好きな学習や活動（部活、クラブ等）> ・漢字を書くことは、得意である。 ・水泳部に所属している。		<その他特筆すべきこと> ・計算が苦手である。 ・公式を覚えられない。	
進路	青森県立新町高校への進学を希望している。			
チーム 編 成	担当教員		<学年職員> 福井T、高安T、廣内T、中田T、江島T、石久保T <教科担当> 中島T、赤平T、中田T、江島T、石久保T <バレー部顧問> 長谷川（博）T、古澤T	
	関係 機関	分野	連携機関名	備考
		教育	市適応指導教室	一度、見学に行ったことがある（中1）
		福祉	はぐくみプラザ	母が相談したことがある（小5）
		医療		
		その他		
その他	・祖母が弟の面倒をみているとのこと。			

月 日	指導の記録と今後の対応
6月11日	<指導の記録> ・6月2日（木）に行われた定期テスト（数学、理科）では、大部分が空欄であった。 ・6月6日（月）から10日（金）まで欠席し、先週は一度も出席することはなかった。 <今後の対応> ・電話訪問、家庭訪問を継続する。 ・今週中に保護者面談を実施する。
6月18日	<指導の記録> ・6月14日に母親との面談を実施した。学習面でも不安を抱えているとのことであった。特に数学が苦手であり、可能であれば1、2年の内容の指導も行っていたらいいとのことであった。 ・本人は、1年生のときに休んでいた時期があり、その頃の内容からわからないと言っている。 <今後の対応> ・わからない部分については、放課後等を活用して可能な範囲で個別に指導していく。 ・AI型ドリルも活用し、取組状況を把握した上で、学習支援を行っていく。
6月25日	<指導の記録> ・先週は教科担任の中田先生から個別指導をしていただいた。1年生の内容に取り組みむことができた。その後は、AI型ドリルを活用して復習している。 <今後の対応> ・本人、母親と面談して決めた個別のプログラムをもとに支援を進めていく。 ・母親からSCとの面談の希望があったことから、7月5日、カウンセリングの予約をした。
7月2日	<指導の記録> ・個別プログラムに示されている月、水、金の放課後は、登校でまている。 ・教科担任の先生と交代で対応している。計算は少しずつ自信がついてきているようである。 <今後の対応> ・個別プログラムに示されている計画で支援を進めていく。 ・家庭訪問では、本人の頑張りを伝えるとともに、遠隔授業への参加や別室での美術の作品づくりなども提案していく。
7月9日	<指導の記録> ・放課後の登校は継続でまてているが、母の顔では、察知されないことは改善していないとのこと。 ・SCとのカウンセリングでは、母親から生活リズムの改善についての相談があったとのこと。 <今後の対応> ・SCとのカウンセリングは、次回も予約していることから、情報を共有しながら支援していく。 ・生活リズムの改善に向けて、個別のプログラムを修正し、1校時、2校時は遠隔授業を実施する。

<構成メンバー>
 管理職、教務主任、
 学年主任、学級担任、
 生徒指導主任・生徒
 指導主事、養護教諭
 及びスクールカウン
 セラーなど
 ※不登校等特認校に
 ついては、センター
 長も出席している。

「個別プログラム」

個別プログラム（開始日 月 日）

学校名	学校	年	組	氏名
-----	----	---	---	----

	月	火	水	木	金
朝					
1					
2					
3					
4					
給食					
5					
6					
放課後					

教科	学習内容・学習活動等
国語	
社会	
数学	
理科	
音楽	
美術	
保体	
技・家	
外国語	
その他	

個別プログラム（開始日 11月6日）

学校名	中 学校	主に校内教育支援センターを利用している生徒
-----	------	-----------------------

	月	火	水	木	金
朝					
1					
2					
3	センター（遠隔） 理科	センター（遠隔） 国語	センター（個別） 数学	センター（遠隔） 社会	センター（個別） 英語
4	センター（ドリル） 理科	センター（ドリル） 国語	センター（ドリル） 数学	センター（ドリル） 社会	センター（ドリル） 英語
給食	○	○	○	○	○
5	センター 美術	センター 技術	体育	センター 家庭科	センター 総合
6	センター 美術	センター 技術	SCと面談	音楽	体育
放課後	センター 帰りの会	センター 帰りの会	センター 帰りの会	センター 帰りの会	センター 帰りの会

教科	学習内容・学習活動等
国語	国語 直の辞対教科書 P174～184 語句調べ・漢字練習
社会	社会 中部地方く教科書 P221～222 中部地方の特色をまとめる AI型ドリル
数学	数学 平行と合同く教科書 P95～124 角の大きさを求める方をまとめる AI型ドリル
理科	理科 電流と電圧く教科書 P140～181 電流と電圧についてまとめる AI型ドリル
音楽	音楽 ※自分の学級で一緒に課題に取り組む
美術	美術 ※美術の授業で取り組んでいる作品づくりに取り組む
保体	保体 ※自分の学級で一緒に課題に取り組む
技・家	技・家 技術・家庭科の授業で取り組んでいる作品づくりに取り組む
外国語	外国語 Unit5 part1（教科書 P62～）単語調べ、本文の書き写し、文法の説明のまとめ
その他	その他 総合：個人の探究課題（将来の職業）をインターネット等活用して調べる

学習内容や学習活動は、児童生徒及び保護者と十分に話し合い、児童生徒に選択させて支援することが重要です。

＜作成にあたって＞
個別プログラムの作成にあたっては、本人及び保護者の意向を踏まえ、学級担任が、教科担任等と連携し、学習内容や学習方法（個別指導、遠隔授業、AI型ドリル等）を確認して整理している。

【事例1】 本人の実態に応じた個別プログラムの見直し

個別プログラム（5/1～5/2）						
学校名	学校	年	組	氏名		
	月	火	水	木	金	
朝						
1						
2						
3	自宅学習 (国語)	自宅学習 (算数)				
4						
給食						
5						
6						
放課後						

個別プログラム（6/12～6/16）						
学校名	学校	年	組	氏名		
	月	火	水	木	金	
朝					別室登校 (漢字)	
1					別室登校 (漢字)	
2					別室登校 (算数)	
3	自宅学習 (国語)	自宅学習 (算数)	自宅学習 (社会)	自宅学習 (理科)	別室登校 (算数)	
4					別室登校 (社会)	
給食					給食	
5					・壮行式 (参加予定)	
6					・壮行式 (参加予定)	
放課後						

個別プログラム（7/17～7/21）						
学校名	学校	年	組	氏名		
	月	火	水	木	金	
朝		通常登校	通常登校		通常登校	
1		通常登校	通常登校		通常登校	
2		通常登校	通常登校		通常登校	
3		通常登校	通常登校		通常登校	
4		通常登校	通常登校		通常登校	
給食		給食	給食		給食	
5		通常登校	通常登校		通常登校	
6		通常登校	通常登校			
放課後						

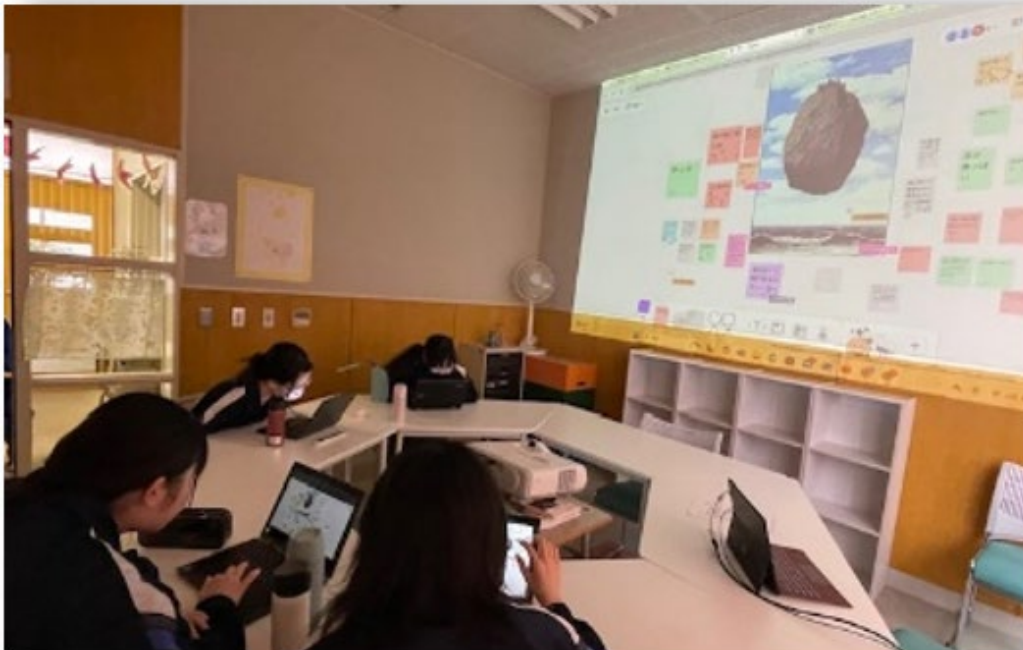
<5月1日～2日>
・リモートやプリントよりも**自分のドリル**を希望。

<6月12日～16日>
・**別室での学習**。
※担任がその都度
学習内容を確認。

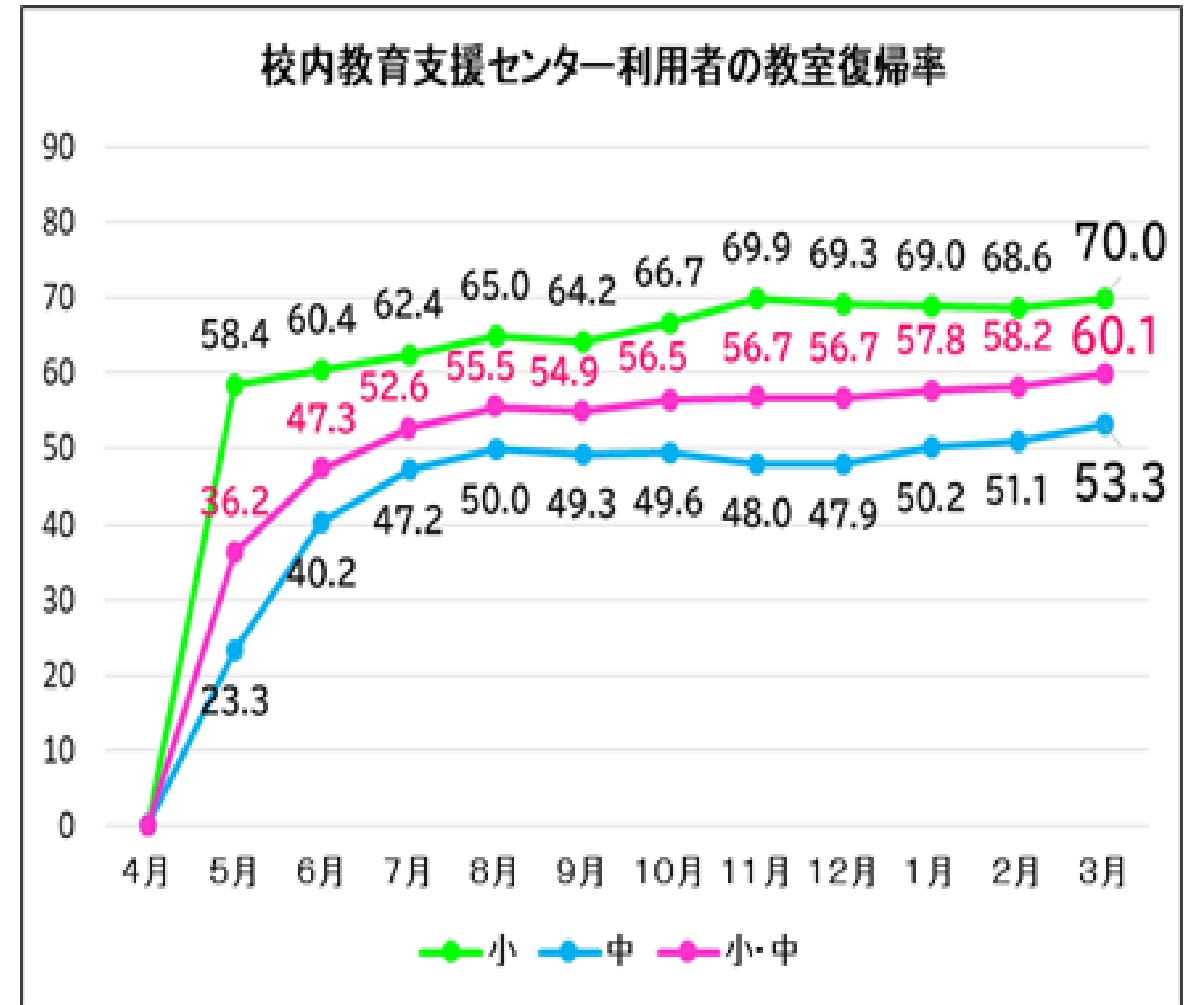
<7月17日～21日>
・7月12日からは、
全ての授業に参加。
※国語100点。

個別プログラムに基づいた校内教育支援センターを活用した支援の成果

- 不登校児童生徒 **83名**減少
- 新規不登校児童生徒 **110名**減少
- 令和5年度不登校児童生徒のうち **162名**が、令和6年度復帰



ICT を活用した対話型美術鑑賞



令和6年度3月末時点

利用者：小学校 227 名、中学校 334 名、計 561 名

※前年度不登校区分の児童生徒数と割合 226 名 (40.3%)

【事例2】個別プログラムによる学習活動の評価に関わる児童生徒と保護者の変容

- ① 通知表に反映されることを伝えると、保護者は喜んでいた。また、作品を仕上げるのが目標になり、登校できた日数が増えた。
- ② 個別プログラムで実施できた学習活動が評価されることで、本人も頑張ることができた。やり遂げることができたという自信につながっている。保護者も子に対しての配慮された評価に安心感を得ている。
- ③ 学習課題に対して継続的に取り組もうとする意欲喚起につながっている。また、個の能力に応じた課題には興味関心を示している。規則正しい生活習慣への改善の兆しが見られた。
- ④ 学習内容を自分で決めることで、次どうするかを自分で決めて実行していく力になっている。
- ⑤ できたことに対する達成感、成就感が本人への自信へとつながり、自己肯定感の高まりが感じられた。その児童の姿に、保護者も無理をさせることなく子どもをバックアップしようという意識が生まれた。

3 不登校等特認校における取組

令和7年4月～ 不登校等特認校での児童生徒への支援

不登校児童生徒等の多様な学びの場を保障する取組として、市内全域から入学・転入学(転校)できるよう、6校を特認校として設置し、校内教育支援センターでの支援の充実に努めています。

【北 部】油川小学校・油川中学校

【西 部】新城中央小学校・新城中学校

【中部・南部】堤小学校・浦町中学校

【東 部】市適応指導教室
フレンドリールームあおいもり

8月末時点、入学・転入学者 15名

～ 日課表(中学校の例) ～

	時 刻	月	火	水	木	金
始 業	9:15～	始業時刻は遅めに設定				
1校時	9:30～	個別プログラムに基づいた学習 <支援内容> ☆校内教育支援センター長による適切な支援 ☆1人1台端末(オンライン授業やAI型ドリル教材)を活用した学習支援 ☆スクールカウンセラーとのカウンセリングや養護教諭との健康相談				
2校時	10:30～					
3校時	11:30～					
給 食	12:40～					
4校時	13:15～	<学習内容> ・各教科の学習 ・未来創造学習 (体験的な活動) 等				
5校時	14:15～					
終 業	～15:15	終業時刻は早めに設定 (部活動参加可能)				

不登校等特認校における支援①

① 支援体制

センター長:教員OB(元校長)、支援員

② 支援内容

【学習支援】

各教科の個別指導、遠隔授業への参加、A型ドリル教材の活用、協働的な学び(制作活動等)

【交流支援】

通常の授業や行事への参加、在籍学級の児童生徒との交流(学活、給食、休み時間等)

【体験学習】

美術館鑑賞体験



支 援

③ 市適応指導教室「フレンドリールームあおいもり」 との連携 ※教育支援室等での相談

<教育委員会>

① 不登校等特認校運営協議会開催

参加者:校長、センター長、養護教諭、市教委

ア 各学校からの報告

(校内教育支援センターの運営状況等)

イ 今後の運営についての協議

(養護教諭や支援員との連携状況等)

ウ 市教委からの指導・助言

② 不登校等特認校説明会開催

参加者:保護者、校長、センター長、市教委

ア 各学校からの説明

イ 個別相談

③ 学校訪問の実施

校内教育支援センターの運営に係る指導・助言

不登校等特認校における支援②



個別学習指導と支援



教員による授業の様子



体験活動



創作活動



共同作業



個別学習スペース



リモート授業



創作活動



体験活動

【事例3】 校内教育支援センターでの支援状況



センター長

太陽の光が全ての命を育むように、子供たちの成長を優しく支え、温かい気持ちになれる場所となるよう願いを込めて、本校の校内教育支援センターを「おひさまルーム」と命名しました。個別のプログラムに基づき、子供たち一人一人のニーズに合わせて支援していきます。自分らしく安心して過ごせることを第一に考えています。ぜひ一度、体験に来てみてください。ご相談のお電話をお待ちしております。



個別学習指導



創作活動・児童の作品



集中タイム



リラックスタイム



体験児童

おひさまルームの先生と一緒に、国語や算数の勉強ができてうれしかったよ。きらきらカードも上手にできたので、メッセージを書いてお母さんにプレゼントしたよ。

静かでほっとする教室環境がすばらしいと思いました。子供も安心して過ごすことができたようです。一人一人の状況に合わせて、相談しながら無理なく対応してくれたので、もう一度体験させにきたいと思いました。



体験保護者

【事例4】 校内教育支援センターでの支援状況

< 青森市立浦町中学校 Nike Room 対応例 >

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
Aさん	登校 自習（個人）下校							
Bさん			登校 自習 給食 専科教師の授業 下校					
Cさん						登校 給食 未来創造学習 下校（部活動）		
Dさん						登校 学習 下校		
Eさん	登校 自習		所属学級での授業		給食	自習		下校

一人一人の
実態に応じた
支援



養護教諭との健康相談



個別の学習支援

特別の教育課程の編成・実施に向けて

- ① 小学校での事例でも紹介したが、登校はできているが、友達との関わりから教室に入りづらいような児童生徒も校内教育支援センターによる支援により、学級復帰できている現状を踏まえると、不登校傾向が見られ、その後不登校となる可能性が高い児童生徒に対して、早期に支援することは極めて有効である。
- ② 不登校児童生徒の状態によっては、達成感を味わったり、本人の自信につながる学習内容とすることで、自己肯定感が高まり、課題に継続的に取り組めるようになることから、丁寧な本人の状態把握を踏まえ、学習内容を決定する必要がある。
- ③ 校内教育支援センターにおける指導体制は、自治体や学校によって様々であることを踏まえると、拠点校（青森市の場合は不登校等特認校）で特別の教育課程を編成・実施することとし、対象校を予め判断し、人材を重点的に配置する方法も有り得る。その上で、教育委員会が積極的に指導・助言したりするなど、学校現場を十分支援する必要がある。

参 考 資 料

～校内教育支援センター設置マニュアル～

校内教育支援センター設置マニュアル【設置の目的】

(1) 設置の目的

児童生徒の実態に応じた個別プログラムを作成、活用し、**学ぶ楽しさ、できる喜び**を味わわせ、**自己実現**を果たせるよう支援の充実を図るために設置する。

※ **校内教育支援センター**とは、学校には行けるけど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋のことです。児童生徒のペースに合わせて相談にのったり、学習のサポートをしたりする場所です。

【文部科学省・『COCOLOプラン』・令和5年3月より】

校内教育支援センター設置マニュアル【支援内容】

(2) 支援内容 「個別プログラムの作成と活用(自己決定と自己実現)」

① 学習支援

各教科の個別指導、遠隔授業への参加、AI型ドリル教材の活用、協働的な学び(制作活動等)

② 教育相談

学級担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの教育相談

③ 交流支援

通常の授業や行事への参加、在籍学級の児童生徒との交流(学活、給食、休み時間等)

④ 一時利用

児童生徒の状況に応じて、保護者と連携した柔軟な対応

一人一人が安心して過ごせる温かい空間

学習環境

学習支援

その他

①一人一人の校内の居場所を共有するためのシートの掲示

②週予定、校内教育支援センター担当教師の掲示

⑥児童生徒、保護者の要望に応じて、授業を配信

①他の視線が気になる児童生徒への対応

④児童生徒が入りやすいような場所に配置

③センター内の装飾は、児童生徒が作成したなどで装飾

⑤図工や美術、技術・家庭、音楽、保体の学習用具も準備

①個別のプログラムを活用した学習支援

③ホワイトボード（黒板）を活用した学習支援

②協働的な学びが可能となるよう、交流スペースの用意

⑦利用児童生徒が興味のある本を整備

②一日の振り返りシートに取り組む記入して下校

④AI型ドリルの他、授業の進度に合わせた各学年、各教科のプリントを用意



校内教育支援センター設置マニュアル【一日の流れ】

(1) 登校前

- ☐ 前日の様子の確認
- ☐ 教室環境の確認

(2) 朝の会

- ☐ 出席状況の確認
- ☐ 個別の時間割の確認

(3) 授業中

- ☐ 個別の学習支援
- ☐ 協働的な学びの設定
- ☐ 在籍学級との交流

(4) 給食・休み時間

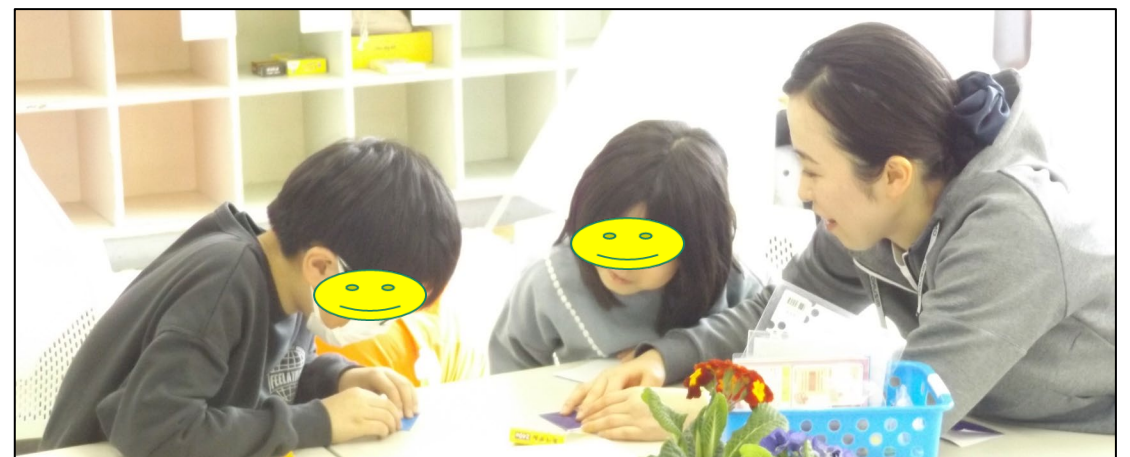
- ☐ 給食指導
- ☐ 学級担任との面談
(取組状況の確認等)

(5) 帰りの会

- ☐ 一日の振り返り
- ☐ 翌日の日程の確認
- ☐ 配布物の確認

(6) 放課後

- ☐ 教育相談の実施
- ☐ 委員会活動への参加
- ☐ 部活動への参加



校内教育支援センター設置マニュアル【役割分担】

役 職	役 割
校長・教頭	①校内教育支援センター（※以下「センター」）設置マニュアルを基にした共通理解。 ②センターの運営に係る教職員の役割の明確化。 ③センターの設置。
教務主任	①センター利用児童生徒対応の時間割作成。
生徒指導主事 及び 教育相談担当	①児童生徒、保護者への周知。 ②利用申請書の発行と受付。 ③センター利用児童生徒出欠一覧表作成。 ④不登校児童生徒の出欠の状況、支援状況の把握と整理。 ⑤組織的な支援体制の整備。 （ケース会議の運営、センターの運営、関係機関との連携）
特活部長	①所属感・連帯感、成就感を味わわせる学校行事の計画と実践。 （センター利用児童生徒の参加を考慮）
学年主任 及び 学級担任	①児童生徒の活動に係る自己決定の支援。 ②学年の不登校児童生徒の出欠と支援状況の把握。 ③児童生徒、保護者との信頼関係の構築。 ④保護者面談シートの活用とケース会議活用シート（不登校）、個別のプログラムの作成。 ⑤電話訪問や家庭訪問、オンライン面談の実施。
教科担任	①成就感を実感させる学習支援。（個々の状況に応じた補充と発展）
養護教諭	①養護教諭の特性を生かした専門的な視点での助言・支援。 ②児童生徒との教育相談。
SC	①子供や保護者の心のケアと対応についての教職員への助言・支援。（ケース会議への参加） ②児童生徒との定期的な教育相談。

校内教育支援センター設置マニュアル【一年の流れ】

(1) 年度始め <支援体制の確認>

- ☐ 教職員間でのマニュアルの共有
- ☐ 保護者案内の作成【参考資料：別紙】
- ☐ 児童生徒への周知（全校集会、学年集会等）
- ☐ 保護者への周知（授業参観日、保護者集会等）
- ☐ 教職員の役割分担
- ☐ 利用申請書の作成【参考資料：別紙】
- ☐ 教室環境の整備

(2) 学期中 <児童生徒理解と個別の支援>

- ☐ 利用児童生徒、保護者との面談
 - ☐ 利用児童生徒の個別の支援
 - ☐ 利用児童生徒のケース会議
 - ☐ 学期中の取組の評価
- 「個別のプログラムの作成と活用」

(3) 長期休業中・年度末 <支援体制の振り返りと個別の支援>

- ☐ 支援体制の成果と課題の共有
 - ☐ 利用児童生徒、保護者との面談
- ※変容の共有(学習面、生活面)
- 「個別のプログラムの見直し」



◇ 校内教育支援センター利用案内・利用申請書

保護者案内(例)

令和6年4月〇日

保護者 各位

青森市立〇〇〇学校
校 長 〇〇 〇〇

校内教育支援センター「〇〇〇」のご案内

早春の候、保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から深く感謝申し上げます。

さて、本校では、児童生徒一人一人に安心して学習に取り組める居場所を確保するため、校内教育支援センター「〇〇〇」を設置しており、「〇〇〇」では、児童生徒が自分に合ったペースで学習や生活ができるよう、利用児童生徒本人の実態や保護者の考えを踏まえながら、下記のとおり対応しています。

つきましては、「〇〇〇」の利用を希望する場合、学級担任を通して、別紙『校内教育支援センター「〇〇〇」利用申請書』をご提出くださいますよう、お願いいたします。

記

1 「〇〇〇」に込められた願い (例)

自分の教室とは別の場所で落ち着いて学習や相談ができ、悩みや不安を解消し、心のエネルギーを貯めることができる場という願いが込められています。

2 「〇〇〇」利用可能児童生徒 (例)

すべての児童生徒が利用できます。

3 「〇〇〇」利用可能時間 (例)

朝の会(〇:〇〇)から帰りの会(〇:〇〇)まで利用できます。

4 「〇〇〇」利用までの流れ (例)

- (1) 別紙『校内教育支援センター「〇〇〇」利用申請書』の提出をお願いします。
- (2) (1)の提出後、本人、保護者と面談を実施します。
※面談日は、後日、改めて学校から連絡します。
※個別のプログラム(登校時刻や下校時刻、学習支援、教育相談等)について、面談で確認します。
- (3) (2)の面談後は、個別のプログラムを活用した支援を行っていきます。

問い合わせ
教頭 〇〇 〇〇
〇17-〇〇〇-〇〇〇〇

申請書(例)

令和〇年〇月〇日

校内教育支援センター「〇〇〇」利用申請書

青森市立〇〇〇学校長 様

保護者氏名 印

校内教育支援センター「〇〇〇」の利用を希望します。

学年・組	年 組
ふりがな 児童生徒氏名	
保護者連絡先	【連絡先1】(自宅・携帯・勤務先) — —
	【連絡先2】(自宅・携帯・勤務先) — —
	【連絡先3】(自宅・携帯・勤務先) — —